



紅葉散る現世音なく紅葉散る

～加藤邦之助名誉院長 句集“花ふぶき”より～

## 医療連携室

平成16年2月、地域で連携していただいている医療機関対応窓口の一本化と院内の情報共有化、院内のスピーディーな情報伝達、スムーズな依頼内容の処理を目指すシステムを構築し、地域に根ざしたよりよい医療機関になっていくため医療連携室を設置いたしました。

\*

医療連携室は、(1)紹介患者さまに関する事項、(2)検査委託に関する事項、(3)入院紹介患者さまに関する事項、(4)転院患者さまに関する事項を主な機能としています。

大まかな流れは、患者さまが地域の医療機関(かかりつけ医)を受診後、その医療機関から当院の医療連携室へ患者情報の提供と「受診依頼書」をFAXにて送信していただき、当院は「受診確認連絡表」を作成し、FAXにて紹介患者さまの診察予約日等の受付状況を当該医療機関に返信します。地域の医療機関から患者さまに当院の診察予約日等のご案内「受診確認連絡表」をご確認の上患者さまにお渡しください。受診当日は保険証、受診確認連絡表、診療情報提供書等を持参の上、当院に受診していただきます。更に、医療連携室からは地域の医療機関に来院確認の情報提供「紹介患者受診報告書」をFAXにて返信させていただきます。

入院に尽きましては、介護療養病棟の場合、電話にて相談の後、入退院検討会にて入院の可否を決定させていただきます。老人性痴呆治療病棟及び精神科病棟の場合、電話にて相談の後、外来受診をしていただいた後、医師による入院の可否を決定させていただきます。何れの場合も院内の情報共有を図る目的で、

電話対応シートに基づいたご質問をさせていただきます。

立ち上げより半年間(2月～8月)で相談件数174件ありました。相談内容の内49件が受診希望、102件が入院希望、検査依頼12件、転院11件となっています。また、受診希望の内、精神科が37件、内科4件、老年科8件、入院希望の方は25件が介護療養病棟、77件が精神科病棟でした。相談者は病院が77件と最も多く、続いてクリニック18件、保健所・市役所15件、在宅介護支援センター8件、その他55件となっています。地域としては名古屋市の64件をはじめ大府市42件、東海市、刈谷市15件など近隣地域を中心としたご相談が多く寄せられています。

●お問い合わせ先 医療連携室責任者 佐藤 美智子

【医療連携室連絡先】特定医療法人共和会 共和病院 医療連携室

TEL : (0562) 46-2166(直通)

FAX : (0562) 44-8812

メール : iryourenkei@kyowa.or.jp

業務時間 : 月～金 (9:00～17:00)

なお、専門外来として、老年科外来(痴呆や物忘れを主訴とした方を対象)が、平成15年4月に開設して、河野和彦医師が担当しております。

【老年科外来日】月・木・金 受付時間(8:30～11:30)

運用が始まってまだ半年余り、やっと軌道に乗ってきたばかりですが、地域の医療機関と病診・病病連携を通じて今後とも密接に連携を深めていきたいと考えております。



## 非暴力的危機介入法<sup>®</sup>って ご存じですか?

非暴力的危機介入法<sup>®</sup>は、アメリカのCPI危機予防研究所(Crisis Prevention Institute, Inc)が1970年代中頃、精神病院内での患者様への拘束、薬物使用などが人権問題として取り上げられたことが背景となり開発された危機予防-介入の具体的なノウハウをプログラム化したもので、不安、敵意、暴力的行為に直面したときにどのようなレベルの知識や経験を持つスタッフにも容易に理解できるような体型づけられています。すでに、アメリカ、イギリス、カナダをはじめとする先進国では、全教職員の必修研修として位置づけている教育委員会も多く、大学では教職課程の必修コースに取り入れられているところもあります。1980年以降、たとえばケアワーカーから医師までを含む、精神科、病院、老人ホームのスタッフ、学校、児童養護施設、自立支援施設、警察、更正施設、グループホーム等のヒューマンサービス分野に携わる人々を中心に、全世界で450万人以上の人々がこの研修を受けています。今日、非暴力的危機介入法<sup>®</sup>は行動マネジメントの最も良い訓練として世界的に知られ、そして危機防止と仲裁訓練の国際基準として、有効性と安全性は高い評価を得ています。

\*

### 当院での取り組み

共和病院では看護部を中心に非暴力的危機介入法<sup>®</sup>の勉強を始めましたので、その取り組みを紹介させていただきます。

患者様の中には、病状が思わしくない時、興奮され、患者様ご自身も、また、他の患者様にも、医療従事者へも敵意を表したり、暴力行為が起こることが稀にあります。

当院では、このような患者様への危機対応として、敵意を表したり暴力行為の恐れがある場合の予防および抑制、非言語的コミュニケーションによる表現法、暴力を避ける方法、適切な制限の設定などスタッフがプロ意識を維持し、自らをコントロールすることを、声のトーン・抑揚・リズム・大きさや立ち位置、視線の送り方などの相互作用やロールプレイを通じて学ぶことにより、患者様、職員に対して、可能な限り最良の「ケア・幸福・安全・安心」を提供することを目標にしています。



この講習を通じて、  
ケア・幸福・安全・安心  
というテーマが  
より多くの人に伝わる  
よう努めています

インストラクターの  
河口 裕貴さん

この講習を行うインストラクターは、24時間の集中プログラムを受ける必要があります。当院からもケアワーカーの河口裕貴さんが、昨年東京で養成プログラムを受けインストラクターが誕生しました。以前は非暴力的危機介入法<sup>®</sup>の実践では先輩である大仲さつき病院(三重県員弁郡東員町)の田島さんを講師に招き2回講習会を実施しましたが、今年度より年4回この河口さんを中心に当院スタッフに対し講習

を行うことになりました。  
主な内容としては次の通りです。

- 暴力を未然に防ぐ方法
- 暴力を起さそうになった患者様の行動抑制法
- 患者様を落ち着かせるための言語的・非言語的介入法
- 暴力行為に至ってしまった人からの自分を安全に守る方法
- どのような危機的状況においても安全かつ治療的に介入できる方法
- 危機に陥った人とのコミュニケーションの構築方法

インストラクターとしてはまだ不慣れと言うこともあり、1回の研修は定員12名程度と少人数の講習です。参加者の中には、ベテラン、中堅の職員をはじめ、精神科の経験も浅く、危機介入時の不安を抱いていた職員も多くなります。

\*

### 講習後の参加者の声

「自分自身のプロとしての自信に繋がった」「知識を身につけておくことで、精神的にゆとりができた」「以前から名称だけは聞いたことがありましたが、講習を受け内容が良く理解できました」「非暴力的危機介入法<sup>®</sup>によって、患者様はもちろん自分達も安全で安心して働ける環境を考えられるようになった」「患者様が暴力を起ささない環境を提供する技術として有効である」「暴力が起きそうな患者様を力で抑えるのではなく、技術で対応することが学べた」「知識や技術を身につけることで、漠然とした不安が解消された」など、講習を受けて得られたことは多いようです。

患者様と職員の安全・安心を守る一手段として、信頼を頂ける医療機関として、また信頼を頂ける治療関係を築くために、これからも一人でも多くの職員が参加し活動を継続させ臨床の場へ活用していきたいと考えております。

## 病院での体験学習



8月4日、私は勤労体験学習に、共和病院での一日勤労体験を行わせていただきました。共和病院は幼い頃から何度も通院している所でしたが、その日はどうやって病院まで行ったかすら覚えていないほど緊張していました。しかし、病院で働いている方々は本来ならお仕事の邪魔になってしまう私達を快く受け入れてくださいました。病院で私達は、シーツ替え、掃除など基本的な仕事や病院内見学など様々な体験をさせていただきました。中でも一番心の中に残っているのは、あちらこちらで目に入った看護師さん、ケアワーカーさんと患者さんとの“人と人とのふれあい”です。病院の方々は患者さん達のことをいつも第一に考えていて、看護師さん、ケアワーカーさん達と患者さん達との間に会話や笑顔が途切れたところを私はその日一度も見ませんでした。私はこの体験学習で、病院内の仕事だけでなく、人と人とのふれあい、病院という場所での思いやりの深さなど、目に見えないものまで学ばせていただきました。私に、貴重な体験をさせて下さった共和病院の方々に、心から感謝を申し上げます。この貴重な体験で得られたことを胸に、機会があれば看護とすることについてこれからも学んでいきたいと思えます。

大府中学3年 内田 友理



## 憩の郷での 1日体験を 終えて

大府中学2年  
松下実奈

**私**の母が、精神科で働いている事もあり精神障害の方とふれあってみたいと以前から感じていました。しかし、体験の朝は、正直言って、緊張していました。

「憩の郷って、どんな雰囲気なんだろう？」と少し緊張して入り口を入ると、笑顔一杯で、施設長さんが出迎えてくださいました。建物は、木のぬくもりを感じて、ホットしました。最初は、タオルたたみをしました。メンバーの方とは、なかなか



か話せませんでした。大学生のボランティアの方が、親しげにメンバーの方と話しているのを見て、私も勇気を出して話しかけてみました。私が話したメンバーさんは、35歳くらいの方で、部活でクラリネットや、トロンボーンをされていたとの事。私も、サクソをしていました。「学生時代は練習がきつかった」等、つつい話に夢中になり楽しい時間はあっという間に経ちました。メンバーさんと話してみても、「えーっどこに障害があるの??」と感じました。障害者という言葉すら失礼な気がします。親切で、優しく、憩の郷の職員さんも、メンバーさんも温かみがありました。1日だけのボランティアでしたが、許されるのならまたメンバーやスタッフの方々と話したいです。憩の郷は、その名の通り憩いの場所でした。

### 編集後記



日本のメダルラッシュに沸いたアテネ五輪、アテネ・パラリンピックが幕を閉じました。柔道、水泳、体操の活躍はお家芸復活と騒がれ、一人で7個もの金メダルを獲得と驚異的な活躍を見せた競泳の成田選手にも注目が集まりました。結果として残念な競技も沢山ありましたが、そんな中、柔道、水泳、体操など個人競技だと思われがちな競技の選手達のインタビューからチームワークの力が感じら

れた大会だったと思います。選手達の緊張感やプレッシャー等のストレスは計り知れないものがあつたに違いありません。選手の努力もさることながら、本番で力を発揮すべく指導してきたコーチ・スタッフ、選手を陰ながら支え、応援してきた周りの人々とのチームワークの勝利といえるのかも知れません。それにしても選手一人ひとりが生き生きとしていたのが印象的でした。

# 高脂血症

—ドロドロ血液—

人の体内を流れている血液には、さまざまな物質が溶け込んでいて「脂質」もその1つです。脂質にはいくつかの種類があり、主に「コレステロール」と「中性脂肪」に分けられます。これらが血液中に増えすぎると、血液がドロドロになって体に悪影響を及ぼします。これが「高脂血症」です。日本人で高脂血症は50歳代で6割近いともわれています。

脂質が必要以上に血液中にたまって高脂血症の状態になると、血管の内腔が狭くなる「動脈硬化」を引き起こします。この動脈硬化が心臓の血管に起こると「心筋梗塞」や「狭心症」、脳の血管に起こると「脳梗塞」といった、命にかかわる重大な病気につながります。

コレステロールは脂質なので、そのままでは血液には溶けません。ですから、水になじみやすい特殊なたんぱく質と結合して、粒子となって血液中を運ばれます。この粒子の主なものに、LDL(低比重リポたんぱく)やHDL(高比重リポたんぱく)があります。LDLは1つの粒子の中にコレステロールを比較的多く含んでいるもので、一般に「悪玉」といわれています。逆に

となります。

血液中のコレステロール

や中性脂肪の増加には、食生活を含めた生活習慣や体質が深くかかわっています。肉の脂身や鶏卵、いくらなどコレステロールの多い食品を摂り過ぎるとコレステロールは高くなります。糖分やアルコールの摂り過ぎも肝臓での中性脂肪やコレステロールの合成を促進、たばこもHDLを低下させるので、やはりよくありません。また、運動は中性脂肪を分解し、HDLを増やすといわれており、運動不足も悪影響をあたえるといえましょう。さらに、閉経した女性も血液中のコレステロール増加を抑える女性ホルモンが減るため動脈硬化のリスクが高くなります。

高脂血症であるかどうかは、健康診断などで行われる血液検査の結果を見ればわかります。血液検査のなかで、高脂血症の指標となるのは「総コレステロール」「LDLコレステロール」「HDLコレステロール」「中性脂肪」の4つです。LDLコレステロールは、一般の健康診断では出していないことが多いのですが、以下のように総コレステロールとHDLコレステロール、中性脂肪から計算することができます。

$$\text{LDLコレステロール} = \text{総コレステロール} - \text{HDLコレステロール} - (\text{中性脂肪} \div 5)$$

HDLは、粒子の中のコレステロールが少なく、血液中からコレステロールを肝臓に運び出す働きをもち、「善玉」とよばれてもいます。

LDLに含まれるコレステロール(LDLコレステロール)は通常、血管壁の細胞に取り込まれ、一方、HDLは血管壁の細胞から余分なコレステロールを取り除く働きをしています。血液中のLDLが非常に多くなった場合、あるいはHDLが少な過ぎるような場合、LDLコレステロールは血管壁の細胞にどんどん取り込まれていきます。すると血管壁が肥厚し、血管の内腔が狭くなります。この部分に血栓(血の塊)ができて血管を塞ぐと、それが心臓の冠動脈であれば「心筋梗塞」、脳の血管であれば「脳梗塞」

日本動脈硬化学会の診断基準は表に示した如くですが、その人の危険因子(喫煙・高血圧・糖尿病など)の有無によってはさらに基準を厳しく治療目標を掲げています。

皆さんの血液は「ドロドロ」ではないでしょうか?

## ■高脂血症の診断基準 (日本動脈硬化学会)

総コレステロール	220mg/dl以上
LDLコレステロール	140mg/dl以上
HDLコレステロール	40mg/dl未満
中性脂肪	150mg/dl以上

※上表の基準に1つでもあてはまる場合は「高脂血症」と診断される



共和会理念

## 『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

## 基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様へより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆様と医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。

これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報には保護されます。

病院長 榎本和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

俳句コーナー

名譽院長  
加藤邦之助

筒袖や  
秋の柩に  
したかわず 漱石

「倫敦にて子規の訃を聞きて」の前書の句。明治三十五年九月に亡くなったと知らされた時の追悼の五句の中の句です。句意は「洋服(筒袖)のロンドンに居ては、あなたのお棺について行くことも叶わない」と悔やんでいるのです。

二人は寄席の話が因で最初に心が合い、漱石自身趣味も合ったし、性質も似たところがあったし、もう一つは自分の方が人に善かったから子規の我と自分の我とが無茶苦茶に衝突しなかった為、仲良く出来たと話しています。

松山の漱石の住居に肺結核の子規が強引に入り込んで、昼食一人勝手に蒲焼きなどを取って食べたり、俳句の門下生を集めて句会を開いたりした二ヶ月で東京に帰る時、漱石に「君、全部払って呉れ給へ」と言って、帰京の旅費十円無心して、翌日帰途奈良へ立ち寄ってその金全部費ってしまった話も有名ですね。(WA!9号に詳しく紹介しています)